

「テルモ株式会社の健康経営」

—組織横断チームで推進する健康施策—

津 田 陽 子*1

伊 藤

萌*2

はじめに

テルモ株式会社(以下、テルモ)は、1921年に国民衛生の基礎を支える良質な体温計の国産化を目指して設立された会社ですが、総合医療メーカーへと発展し、来年に創立100周年を迎えます。「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、進化する医療現場とともに歩み続け、現在では世界160以上の国や地域で事業を展開する、日本発のグローバルカンパニーへと成長しています。

テルモでは、中長期成長戦略を実現するうえでのポイントの1つに「人と組織の活性化」を掲げています。人と組織の活性化には社員一人ひとりが健康でいきいきと活躍することが欠かせず、医療に携わる企業として社員の健康は特に重要なテーマであると考えています。そのため、健康経営はコストではなく未来への「投資」と位置づけ、さまざまな取り組みを継続して行っています。近年、社員の高齢化や女性社員の増加をはじめ、人財の多様性が拡大する中、これまで顕在化していなかったさまざまな健康課題が浮かび上がってきています。社会環境や社内の状況を分析し、長期的な視点に立って健康経営を推進することは、多様な働き方の実現につながり、社員の生産性やパフォーマンスの向上をもたらすと考えています。

また、人財獲得はますます厳しい競争になります。新卒・キャリア採用ともに、働く環境が会社選びの指標の1つとなっています。企業として、社員の健康に本気で取り組む姿勢や想いを社内外に発信することは、企業ブランドの向上や、人財の獲得にも大きな効果があるといえます。

こうして健康経営を推進していくことは、社員と組織に活性化をもたらし、将来的には企業価値や業績の向上につなげていく大切な取り組みになります。そのため、テルモでは、現在は以下4点を重点テーマとして掲げ、経営トップ自らコミットし、率先して健康経営を推進しています。

1. テルモの健康経営：重点テーマ

(1) 喫煙率・メタボ率の低減

2016年度に敷地内全面禁煙を開始しました。また禁煙外来受診(図-1)や禁煙補助剤購入の費用補助も行い、社員の行動変容を促進してきました。その結果、喫煙率は2013年度から4年間で9ポイント減少して2018年度は約23%となり、さらに現在も喫煙率20%未満を目指した活動を継続しています。また、メタボ率に関しては、WEBウオーキング大会や、体組成計や活動量計を用いたレコーディングダイエットなどを企画・実施し、特定保健指導対象者だけでなく、若年層に対してもアプローチを行っています。喫煙やメタボ

図-1 社内産業医による禁煙外来



*1 テルモ株式会社 人事部 人事企画チーム

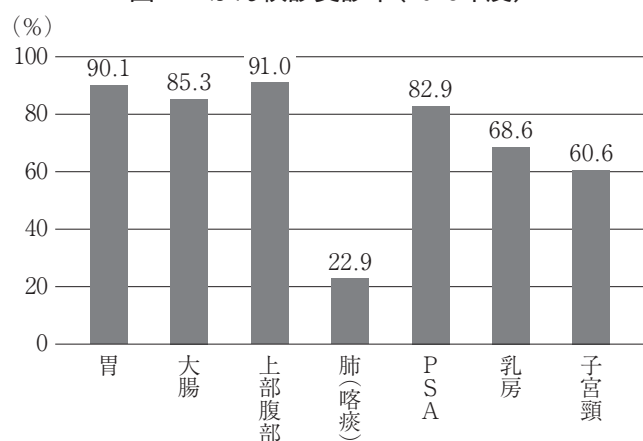
*2 テルモ株式会社 研究開発推進部

に対する取り組みは、日頃の地道な活動も重要であり、産業保健スタッフが社員一人ひとりの状況に合わせて、定期的な面談や生活指導などのフォローを丁寧に実施しています。また、喫煙者が多い工場地区では、産業医による禁煙・生活習慣病のセミナーを複数回実施し、社員の健康意識向上へ向けた啓発活動を実施しています。

(2) がんの早期発見・早期治療・職場復帰

がんの早期発見に向け、法定の定期健康診断と同時にがん検診を受診できるようにしているほか、費用全額を健康保険組合が補助しており、それらが受診率の向上にもつながっています(図-2)。さらに二次検査が必要となった場合も、各事業所の産業保健スタッフが中心となり、丁寧な受診勧奨を行っています。また、早期発見・早期治療を進めるだけでなく、実際にがんが発見された社員を支援するため、2017年に「がん就労支援制度」を制定し、仕事と治療の両立を可能としながら、前向きに働ける環境を整備しました。これまでも個々の状況に応じた運用を行ってきましたが、制度として明文化することで、「治療と仕事の両立を支援する」という企業姿勢が明確となり、その結果、がん罹患した社員が会社や上司に相談しやすく、かつ復職後の自身の働き方を、より前向きにイメージできるようになったと考えています。

図-2 がん検診受診率(2018年度)



(3) ウィメンズヘルス

女性社員の増加に伴い、女性特有の健康管理に注力しています。乳がんや子宮頸がんなどの検査費用を健康保険組合で負担するだけでなく、乳がん検査では、より病変の発見率の高いMRI検査の費用補助も行って

います。また、女性を対象とした講演会も実施しており(図-3)、女性のライフステージにおいて訪れるさまざまな心身の変化を知ること、仕事への向き合い方やセルフマネジメントの手法を学び、イキイキとしたキャリア形成ができるようサポートしています。セミナーの中には男性社員も参加するものもあり、「一緒に働く女性社員だけでなく、家族の健康について考える良い機会になった」等の意見が出るなど、理解促進につながっています。

図-3 女性の健康セミナー



(4) 自発的取り組みの奨励

社内イントラネットに健康経営の特設サイトを設け、テルモの健康経営への取り組みやトップメッセージ、健康増進に関わるサポート内容や制度を紹介しています。各事業所での健康増進に対するユニークな取り組みも発信しており、その結果自主的な活動が積極的に行われる雰囲気が醸成されてきました。健康経営推進においては、社員一人ひとりの自発的な取り組みが最も重要であると考えており、今後も活動を推奨するための情報配信に注力していきます。

2. 「健康経営推進チーム」を編成

健康経営を推進するにあたり、グループ会社も含めた横断的な組織「健康経営推進チーム」を構成し、健康保険組合と連携したコラボヘルスを実施しています。統括産業医を中心として、各事業所の産業医・看護師・保健師などの産業保健スタッフ、安全衛生担当者などと連携しながら、一体となって健康経営を推進する体制を整えています。1年に1回開催する「健康経営推進会議」では、地方拠点もWEB会議システムで繋ぎ、全メンバーが一堂に会し、健康経営の全社的な方針や新しい取り組みについて議論を行っています。

(図-4)。また各事業所の課題や活動事例を共有することで、知識や取り組みレベルの標準化を図っています。

図-4 健康経営推進会議の様子



3. 「湘南センター」での取り組み

このように、健康経営の取り組みは、本社が主体となって進めるだけでなく、各事業所の健康経営推進メンバーが主体となり、先述した4点のテーマを軸に、事業所の特徴や環境に合わせた工夫を凝らしながら進めています。その中で、今回は「テルモ湘南センター」の取り組みをご紹介します。

神奈川県足柄上郡中井町にあるテルモ湘南センターは、医療機器・医薬品の研究開発を行っており、主に研究開発業務に従事する社員が多く在籍しています。当センターでは、社員を健康面からサポートするべく、湘南センターの健康経営推進チームのメンバーが四半期に一度、健康増進イベント「イキイキ☆スタジオ」を開催しています。「イキイキ☆スタジオ」(図-5)は心身の健康増進を目的として2017年に発足し、誰でも気軽に楽しく参加でき、イキイキと働ける環境作りの一助となるセミナーや体験型学習を提供していま

図-5 イキイキ☆スタジオ



す。ふらっと立ち寄れる雰囲気づくりを重視し、昼休みを中心に、会場も共有スペースである社内のラウンジや食堂を利用して行われ、これまでに多くの外部講師を招き、さまざまな視点からイベントを実施してきました。

例えば、「栄養イベント」の開催です。日本栄養士会では、8月4日を「栄養の日」、8月1日～8月7日を「栄養週間」と制定していますが、この時期にちょうど社員の定期健康診断の結果が本人に返却されるため、栄養や食生活を見直すきっかけづくりとして、1週間さまざまなイベントを実施しました。

昨年度は小田原保健福祉事務所の管理栄養士の方をお招きし、栄養セミナーを実施しました(図-6)。できるだけ多くの社員に参加してもらえるよう、定期健康診断の有所見者には衛生管理室の看護師から個別に参加を促す声かけを行い、またセミナーでは、定期健康診断で有所見率の多い項目(血中脂質や血圧)に対して、食生活のアドバイスや、食堂やコンビニでより健康的なメニューの選び方のポイントについての講義を行って頂きました。そのほか、社員の1日の食事を写真撮影し、当日にその内容を採点するプログラムでは、楽しく盛り上がるだけでなく、「このメニューには〇〇が不足しているため、副菜をもう一品追加して補うと良い」などのアドバイスに、参加した社員が食生活改善をより具体的に考える機会にもなりました。

図-6 栄養セミナーの様子



今年度は栄養にまつわるクイズの実施や、飲料メーカーと連携した美味しいお茶の淹れ方セミナーなど、前回とは違った切り口で、新たに関心を持ってもらえるようにイベントを企画しています。イベント期間中は、食堂の運営会社様ともタイアップし、さまざまな健康メニューを提供しました。塩分少な目で野菜たっぷりのおかず、サラダバーなど、この期間にしか味わ

えない工夫を凝らしたメニューに、日頃の野菜不足を実感する社員も多く見受けられました。さらに、食堂前には健康測定ブースを設置し(図-7)、血圧や血管年齢、肺年齢など、自分自身のセルフチェックを行う機会も作り、気軽に測定できるとあって、連日多くの社員が列をつくって参加していました。

このイベントは、栄養に関する知識や気づきを得ることで、より健康への関心を高めているとともに、さまざまな測定体験を通して自身の健康状態を目で見て知ってもらう非常に良い機会となっており、今後も社員が自発的に健康に関心をもってもらえるような取り組みを継続して実施していきたいと考えています。

図-7 健康測定コーナー



また生活習慣病などの健康課題だけではなく、心身のリフレッシュを目的とした健康イベントも展開しています。秋には紅葉が綺麗なテルモ湘南センターの敷地内で、ウォーキングイベントを実施しました。これは健康運動指導士をお招きして下肢筋力チェックを行った後、「正しい歩き方」「健康に効果的な歩き方」についてレクチャー頂きながら、実際に外に出てウォーキングを行うものです。昼休みの中で30分程度の短い時間ですが、外の空気を吸って体を動かすことで、リフレッシュして午後からの仕事に取り組む社員も多く見受けられました。

参加できなかった社員に対しても、オフィスや食堂に設置しているデジタルサイネージ(社内掲示板)で当日の様子を繰り返し放映し、空き時間にいつでも学べるような工夫も行っています。

少し変わった企画では、ピアニストの方によるセミナーも多くの関心が集まりました。近年、音楽を医療現場に取り入れることの効用も認められてきており、音楽には治癒能力があるともいわれています。日々忙しくしていると忘れがちですが、時には自然の音に耳

を傾けたり、心地よい音楽で心身を休ませる時間も非常に大切です。会社にながらも素敵なピアノの音色に癒され、参加者からも「リフレッシュした状態で午後の業務に取り組むことができた」との前向きな意見が多く聞かれました。

健康は、日頃なかなか自分事として意識することが少なく、つい後回しになりがちです。また会社からの一方的な施策だと、社員に「やらされ感」が生じ、「楽しくない」「面倒くさい」と思われることも多く、社員の行動変容を促すことも困難です。テルモ湘南センターの取り組みでは、そうしたイメージをなくし、明るく、楽しいものに変えて、少しでも社員の意識が変わるように心がけています。また、このような取り組みは、健康増進に対する意識変革だけでなく、相乗効果として、部門や組織を超えたコミュニケーションの活性化にもつながっています。

おわりに

健康経営の取り組みは、「これさえすれば良い」という絶対的な解答や解決策はなく、成果がすぐに表れるものでもありません。長期的で地道な取り組みが重要ですが、健康経営を推進する上で特に重視しているポイントは、経営側からのトップダウンと、現場視点のボトムアップの双方からアプローチを行うことです。経営トップのコミットメントにより、企業の想いや目指す姿を明確に社員に伝え、全社一体となって進めるとともに、健康経営推進メンバーと連携し、現場の課題をしっかりと把握・分析しながら、社員視点に立った取り組みの推進をともに行うことを大切にしています。

今後の新たな取り組みとしては、データを活用した健康経営の推進に注力していきたいと考えています。最近では入社しながらも不調を抱え、業務の生産性に大きな影響を与えるプレゼンティーズムも課題となっていますが、問題が表面化せず捉えにくい現状があります。今後は健診結果などのデータを管理・分析し、課題を見える化することで、施策のPDCAサイクルを回し、より効果的な健康経営施策に繋げていきたいと考えています。そして、医療に携わる企業として、社員一人ひとりが高い健康意識を持ち、よりイキイキと活躍できるような環境を目指し、これからも積極的に健康経営を推進していきます。